

堀川ラブラブ



「堀川まちづくりの会」は
市民の目が堀川に向かう
良いきっかけに

黒川ドリーム会では、黒川友禅流しの他にも、平成12年(2000)から始まった小学生などが黒川に入っ
て自分たちの手で生き物を捕まえ、
調べる「生き物観察会」、さらには6
月の環境デーに行う北清水親水広場
などの清掃、そして春と秋にも清掃
活動をするなど、黒川の保全に努め
る活動を行っています。

生き物観察会は北区の小学生が中
心でしたが、参加された先生が他の
区に転動されると「あの体験を、う
ちの児童にも」と広がっていき、昨
年は約300人が参加しています。

「子ども時代に川での楽しい思い
出をつくっておけば、大人になって
も川を汚すようなことはしないだろ
う」という発想もあって、始めたこ
とですが、実際に黒川に入って自由
に生き物を捕まえてよいというこ
とが分かれると、子どもたちの表情が
まったく変わります。本当に、生き
生きとして楽しそうです。子どもた
ちのそんな様子を見てみると、私た
ちも嬉しくなってきました。もっとも
観察会を見た女房に言わせると、「子
どもたち以上に、あなたが一番楽し
そうな顔をしていた」そうですから、
私の川好きも相当なようです。

子供たちが感動するのは、「小さ



15回目を迎えた「黒川友禅流し」 今年も満開の桜の下で 華やかに開催されました



黒川ドリーム会 会長
梅本隆弘氏

北区で発足した3つの会が
一緒にできる
イベントをと始まった

黒川ドリーム会は、平成10年
(1998)3月に「黒川の保全」を目
的として発足しました。この時、北
区では味鏡(あじま)いもを普及す
る「北北(ほく・ほく)いもの会」と
からくり人形や名古屋友禅などの
北区の文化にかかわる「ふるさと北
文化に親しむ会」も同時に発足して
います。せっかく3つの会ができた
のだから、何か一緒にできることは
ないかと考えだされたのが、平成11
年(1999)から始まった、桜の季
節に黒川で名古屋友禅の糊を落とす
「黒川友禅流し」です。

黒川沿いには、かつては沢山の染
色工場がありました。そうした工場
の人たちが黒川に入って行う「友禅
流し」は、美しい風物詩でした。しか
し、昭和30年代に入ると堀川も黒川
も水質が次第に悪化し、風物詩も姿
を消しました。

な川にも、沢山の生き物がいる」と
いうことです。そこから、川は生き
物を育む大切な場所であることも学
んでもらえればと願っています。

また「堀川1000人調査隊」、こ
れは漠然と堀川がきれいになった
というのではなく、数値として堀川
がきれいになったことを、市民の目
で検証する「ために水質を調査する
ものです。年2回行い、今回で15回
目となりました。1000人調査隊
といっています。今は、隊員数は
5万人を超えています。ここでも、
実行委員会の会長をさせていただ
いています。黒川友禅流しもそうで
が、私なりに「堀川に向いていない
大多数の名古屋市民の目を、何とか
堀川(黒川)に振り向けてもらいたい」
という願いがあるからです。

その意味で、黒川ドリーム会も参
加する「堀川まちづくりの会」がス
タートすることは、市民の皆さんの
目が堀川に向く、大きなきっかけに
なると期待しています。

明治の堀川大改修によって
犬山―名古屋間が
わずか4時間に

名古屋城から北の堀川が「黒川」
と呼ばれるようになったのは、愛知
県の技師であった黒川治憲(はるよ
し)さんの名前からです。黒川さん
が、名古屋城から庄内川までの堀川
を船が通れるように大改修する計画

しかし、あることがきっかけとなっ
て黒川の水質が浄化され、「友禅流
し」ができるほど水がきれいになり
ました。子どもの頃から汚い堀川(黒
川)しか知らない人たちは、実際に
友禅流しをする光景を目にするまで、
信じられなかった」という方も多
いようです。

黒川ドリーム会発足の年に
堀川再生の
きっかけとなる出来事が

黒川ドリーム会がスタートした同
じ年の9月、黒川の上流で行われて
いた地下鉄上飯田線の工事による地
下水が、黒川に流れるようになりま
した。当初は地下水を下水に流す予
定でしたが、下水を使えば下水使用
料がかかります。黒川に流すため
は、出た地下水を黒川まで通す工事
が必要ですが、完成すれば下水使用
料は不要です。試算された結果、黒
川に流す方がよいとされたのか、北
区民の熱心な要望が功を奏したのか
分かりませんが、きれいな地下水が
黒川を流れることになりました。

この結果、黒川の水質が大幅に改
善され、翌年には「友禅流し」ができ
るまでに復活し、徐々にきれいな水
へと変わっていききました。地下水の
ことを知って、黒川ドリーム会を立
ち上げたわけではありませんが、こ
の偶然は今振り返っても夢のよう
です。まさしく「ドリームがかなう」
そのスタートでした。

を立て、犬山から木曽川を通って、
新木津用水、庄内川を横断して堀川
に入る大運河をつくり出しました。
庄内川から名古屋城までの堀川は途
中で矢田川の下をくぐるのですが、
このトンネルも船が通れる高さにす
るといって、とてもない大工事でし
た。それまでは犬山から船で木曽川
を下って桑名に出て、海を渡って名
古屋港(当時は熱田港)に着き、それ
から堀川を上がって名古屋に入る
という水運しかありませんでした。こ
のルートですと、7日から10日ほど
もかかったそうです。しかし、黒川
さんの作った運河を通ると、犬山か
ら名古屋までたったの4時間で来ら
れるようになったと言います。当時
の人たちにとっては、現在の高速道
路が完成したとき以上の驚きと、大
きな経済効果をもたらしたに違いあ
りません。

こうした堀川の歴史も知っていた
だきたいし、堀川にももっと親しん
でもらいたいと思います。きれいに
なったと言っても、ヘドロやゴミなど、
沢山の問題も残っています。黒川ド
リーム会だけでは手に余ることも多
くありましたが、民産学官が集まっ
て知恵を出し合う「堀川まちづくり
の会」ができたことで、もっと大き
な夢が実現できると考えています。

